

新九郎通信



発行 小田原市栄町2-13-3 (株) 伊勢治書店3F ギャラリー新九郎 木下泰徳
e-mail: kinoshita@iseji.net

いよいよ7月。口蹄疫問題、大雨被害、野球賭博と重いニュースの多い中、ワールドカップに日本中が沸いています。日本人のフェアプレーが海外でも高い評価を受け、堂々と粘り強く戦うイレブンに大きな勇気をもたらした人も多いのではないのでしょうか。この通信が届くころには、目標のベスト4入りが決まっていることを信じます。今月の新九郎も好企画です。画廊企画のアートフェアでは、普段なかなか見ることのできない有名作家の作品が展示されます。今年8回目を迎えた街なみ再発見展も銀座通りの夏の風物詩となりました。VISION2010。中央で活躍されている世代の異なる現代アート作家の作品は必見です。暑さ厳しい毎日ですが、冷房の利いた画廊でちょっと一息アートを楽しみにおいで下さい。



新九郎 7月の展覧会のご案内



会 期	展 覧 会 名	見 どころ
6/30(水)-7/5(月)	新九郎アートフェア2010	草間彌生・横尾忠則・谷川晃一・吉澤美香・ナム ジュン パイク・巖嘔・前田常作・元永定正・菌部雄作・瑛九・大沢昌助・平賀敬・重野克明・林武・向井潤吉他版画作品
7/8(木)-7/12(月)	第8回西さがみ街なみ・ふる里再発見!展	西さがみの魅力を発見する展覧会。審査も賞もなく、応募作品は全て展示。銀座通り6画廊共催(アオキ・飛鳥・コットン倶楽部・エポホール・新九郎・ツノダ)
7/10(土) イベント	新九郎寄席 午後6時開演 前売1200円	出演 立川志らら・笑福亭瓶二 毎年恒例になりました。会場は爆笑の渦に巻き込まれます。
7/12(月) イベント	映画「未来の食卓」上映会午後6時開演	フランスの村で食の安全を考え、学校給食をオーガニックに変えたドキュメンタリー映画です。
7/14(水)-7/19(月)	第2回らくらくてん	10人の会員による作品展(油彩画・水彩画) 年齢も作風も様々な作家が集います。
7/16(金) イベント	新九郎デッサン会 18:15~20:45	コスチューム、固定ポーズ2時間 モデルはアマチュアです。会費1500円
7/28(水)-8/2(月)	VISION 2010	今という時代を8人の現代美術作家が、優れた感性で表現します。

近隣・友の会会員の展覧会情報

第6回我楽多展 曾我壽佳子 高橋房子 住谷美知江展 横井山泰展一鳥の目一 高橋雅和展 花と魚の遊々展 宮本紅魚・小松加子 人気作家油絵小品展 茂登山登一郎他 絵画展フレンズ・ゆりの会 シルエットの写真展「やさしい時間」 100作品展	6月30日(木)~7月5日(月) 6月26日(土)~7月11日(日) 7月16日(金)~27日(火)水・木休 7月11日(日)~18日(日) 7月1日(木)~8月31日(火) 6月4日(金)~8月29日(日)月~木休 7月1日(木)~6日(火) 7月1日(木)~11日(日) 7月27日(火)~8月1日(日) 7月1日(木)~31日(土)	飛鳥画廊(0465-24-2411) すどう美術館(0465-36-0740) ギャラリーさざれ石 (大磯 0463-67-9662) Shonandai My Gallery (六本木) ナヤカフェギャラリー(0460-82-1259)水4木休 ギャラリーシュル(熱海 0557-81-4281) 寄りあい処こうづ(0465-47-0933) 瀬戸屋敷(開成町 0465-84-0050) 二宮ラディアン(0463-72-6911) フジカラー夢工房 MJC(0465-37-0807)
---	--	---

ようこそ平塚美術館

平塚美術館学芸員 勝山 滋

夏休み向けの展覧会としてポーロニヤと並び評されるブラティスラヴァ絵本原画展(7/17-8/29)と、造形作家、黒崎俊雄の展覧会(6/26-8/29)が予定されています。写真は、黒崎のインスタレーション。スチレンボードのピースが単純な色と形のエッセンスとなり力強いフォルムを作ります。全体をみれば、何か有機物が生成するような構成が意図されています。壁2面に配され、奥行きが生まれそうにみえて、なにか日本人の平面性が際立ちます。黒崎展では、小中学生との共同制作、Tシャツに描くワークショップによって、作る楽しさも体験できる工夫がされています。





我が家の玄関を開けると小さなグリーンの作品が目に入る。いつ見ても飽きないモダンなオブジェは 飯室さんの作品「グリーンの中で」である。今月 28 日から VISION2010 の企画をされる作家・プロデューサーとしてご活躍の飯室哲也さんのアトリエをお尋ねし、お話しを伺った。

箱根神社の赤鳥居が芦ノ湖に美しく映えているおなじみの箱根成川美術館の絶景スポットは、飯室さんのアトリエからも同じように見ることができる。夏は涼しく冷房の要らない箱根に来て 5 年、木々の芽吹きから冬枯れまで箱根の四季を共にする生活は、意識しなくとも身体に蓄積されていくものがあると感じているという。



教員を辞し作家として 30 年、一貫して現代美術を追究してきた。新九郎では過去 2 回、個展をした。人は自然と文明の中で揺れながら動いている。それが『時代の自然』なのだ、その枠の中で表現活動をしている。1993 年からのテーマ『グリーンの中で』では、人工芝、ステンレスパイプ、木の枝など自然と人工物を使い、ものと自身のかかわりを表現してきた。又、木の枝をまるでドローイングのように自在に構成し新九郎の空間に展示した『線上の空間感覚』は、作品と同化する楽しさも加わり大変評判となった。インスタレーション、立体、平面、様々な手法で追究を続けるが、たとえ手法が異なっても基本的な感受は変わってはいないのだと穏やかに語る。

飯室さんはご自身をこう語る。常に改革前進するタイプの作家もいるが、自分は自分のやってきたことを振り返りながら制作するスタイルが落ち着いて取り組める。自分の仕事を再確認することは、決して同じことを探求するのではなく、異なるものにスライドさせていくことであり、「今感じている世界」は自分の生き方暮らし方の変化と同じことであると。確かにペイントを主に描き出してから、黒、灰色という物質的なものとしての色が消え、使用する色も自然の変化を受けているように感じる。構成されたものから自由で開放された感じを受けるのは私だけではないはずだ。しかし自然に癒される今の環境に没入してしまうのではなく、都会の刺激に触れることも大切にしていると常に自在な時代の切り取り方を模索する姿勢は変わらない。



VISION2010 は 飯室さんプロデュースのグループ展である。新九郎の広い空間は、東京ではできない自由のきく展示ができ、「面とのコラボレーション」とも言える今回の企画は作家にとっても良い緊張感があるのだという。30 代から 60 代まで中央で活躍する 8 人の世代を超えた展示は、年代による現代美術の違いを感じることができるに違いない。さらに、今までの中央思考から、身近な環境で地道に発信していくスタイルをとる作家の U ターン化もあり、小田原近在の作家の新作を間近で見ることができるのは大変幸運なことである。

現代アートはまだまだ限定された愛好家のものといった感がある。こうした機会により多くの方に質の高い作品を楽しんで頂きたいと思う。少しずつ地方にも広がっている新しい文化に人々がすすんで関わり育てることが真の日本の文化の成熟につながっているのだという飯室さんのメッセージを会場では是非受け止めてほしいと願っている。

(新九郎友の会 木下和子)

6月の事

飛鳥画廊で井上三綱展 (6/10-21) が開催され多くの市民が会場を訪れた。又鴨宮の蔵をギャラリーにした「巨樺の居」では横田七郎展が開催されこちらも盛況だった。加藤市長は両展とも見てブログ「市長の日記」に郷土の大事な作家であるとの認識を持って感想を書いていた。

三綱展では養女の井上皓子氏所蔵の 52 点が出品された。現在小田原市の所蔵する三綱作品は 25 点。平塚美術館には大作を始め 169 点が収蔵されている。小田原で活躍した作家である三綱作品は、小田原で作品収集の充実を図るべきだと常々思っている。井上皓子氏は過去平塚美術館に寄贈をされている。平塚市は将来美術館を作り収蔵展示をするとの約束をし、井上氏はその言葉を信頼し寄贈した。平塚市はその約束を果たし、作品は今も多くの人を楽しませている。井上氏のご高齢なこともあり、残された作品の今後を考え小田原市が責任を持って受け入れてくれれば小田原市に寄贈することも考えていると伺っている。実現すれば小田原市の所蔵は 77 点となり、充実したコレクションとなる。過去小田原市は松永安左エ門氏から重要な古美術品のコレクションの寄贈の申し入れがあったのを断り大なる損失をした。今回はその轍を踏まないでほしい。小田原市から井上氏に正式に寄贈の依頼をしていただき三綱作品収集の充実を図ることのできるこの機会をぜひ生かしていただきたいと切望している。

さらに、加藤市長には新総合計画に美術館開設の計画をぜひ入れていただきたいと思う。井上三綱画伯の他にも郷土の顕彰すべき作家を小田原は多数持っている。西湘地域の中心である小田原市にはその責任があると思う。湯河原町ではゆかりの美術館がある為、近藤弘明画伯の作品の寄贈も受けている。日本芸術大賞も受賞された画伯は 1974 年に小田原市板橋にアトリエを移し、近年は居住もするようになった。小田原市に美術館があれば近藤画伯との交流も図れる筈なのにと誠に残念である。

先日相模原市民ギャラリーの館長と学芸員とお話する機会があったが、歴史とお城の小田原市には美術館が似合うし無いのが不思議な感じがすると言っていた。また、パリのボンビドーセンターでは、子どもたちが床で誰にも邪魔されず自由に絵を描いたり、ブロックの遊具が部屋一杯に用意され、子どもたちがおしゃべりもせず集中して遊んでいた光景は、多くの旅行者から聞く海外の実態であり、日本の子どもたちとの大きな差異を感じる。子どもの創造性を育むのにアートは重要な役割を担っている。創造力豊かな人間を育てる環境整備は、小田原の未来を担う子供たちにとっても大変重要である。郷土の大事な作家の保存・顕彰もこれまた急務である。また観光地としてお城に美術館が加われば、交流人口を増やす施策としても効果的なものとなる筈である。課題の多い市政にあって取り組むべき事は多いことは承知しているが、機を逃さぬ対応と名実ともに『歴史と文化の町』の将来を見越した施策をと思い記した。(Ⓞ)

新九郎寄せ 7月10日(土)

午後 6 時開演 (5 時半開場)
料金前売 1200 円 当日 1500 円



会場 ギャラリー新九郎 (小田原銀座通り)
チケット取扱: 伊勢治書店本店 1F カウンター
TEL 0465-22-1366



林の中のコンサート

クラリネット(谷尻忍)と
ピアノ(江上菜々子)
世界の旅
7月10日(土)
13:30 開場 14:00 開演
一般 3500 円
学生 2000 円
連絡先: 堀家 和男
TEL&FAX 0465-73-3951

伊勢治書店ペンクリニックのご案内

7月14日(水)15日(木)10:00-16:00
本店 2F 文具売場にて開催!
調子が悪い・長い間使っていない万年筆
パイロットの専門家が無料で診断・調整します。